

■シリーズ 沼津兵学校とその人材 112

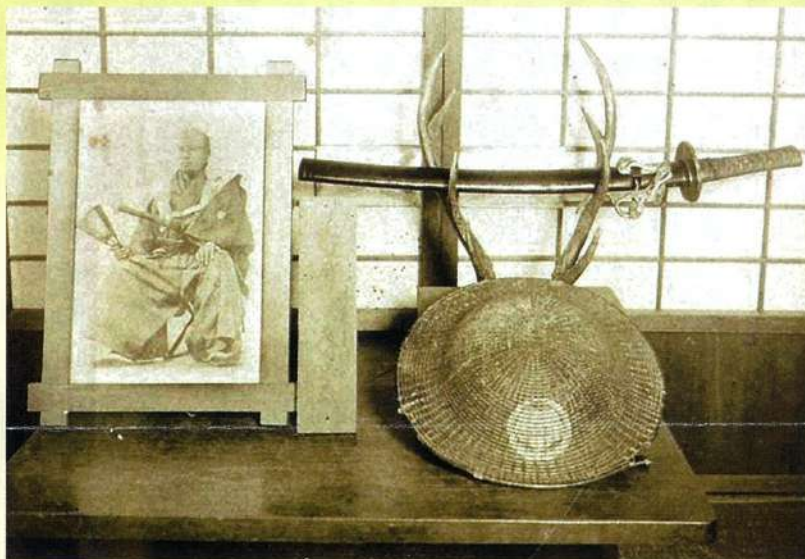
彰義隊と沼津兵学校の人びと

■江原素六とその周辺 72

江原素六と戊辰戦没者慰霊

■夏休みイベント報告

■博物館学芸員実習と館外展示報告



彰義隊の敗残兵と間違われ殺害された
藤田忠蔵の遺影と遺品

当館蔵

75回忌の記念に昭和17年（1942）撮影。藤田は安政大獄で処罰されたことでも知られる。

二〇二四年十月

通巻
159号

沼津市明治史料館通信



上野黒門除幕式の写真

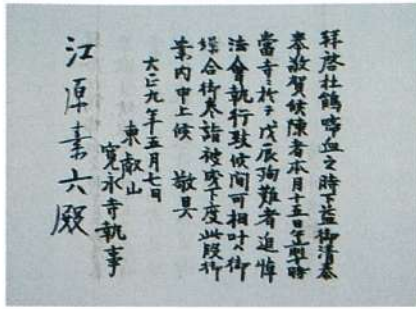
当館蔵

江原素六が残した資料。明治40年（1907）、円通寺に移築された際の撮影。右から二人目の白髭の人物は、箱館戦争を戦った遊撃隊・元岡崎藩主藩士の小柳津要人か。

江原による戊辰戦没者の慰霊・顕彰への取り組みは、沼津以外でも続けられていた。明治二十九年（一八九六）、京都伏見に建てられた戊辰東軍戦死者之碑に対しては、義捐金を出している（『戊辰東軍戦死者追悼碑建設落成報告書』。「官軍」「賊軍」の区別なく、幕末維新期の国事に斃れた人々を追悼するため、三十九年（一九〇六）に東京上野で開催された殉国志士弔慰会に参列したほか、四十一年（一九〇八）には、同趣旨での殉国志士表彰請願を貴族院・衆議院に対し提出する賛同者に加わった（『史談速記録』第百八十号）。また同年、現千葉県市原市に遺族が建てた撒兵隊戦死者の墓碑のため、「徳川氏遺臣梶塚成志墓」との題字を揮毫している。

鳥羽・伏見の敗走を経験し、その後も下総で一隊の指揮官として戊辰戦争を戦った江原素六にとつて、非業の死を遂げた戦友や部下たちの記憶は何十年経っても消し難いものだったに違いない。

（樋口雄彦）

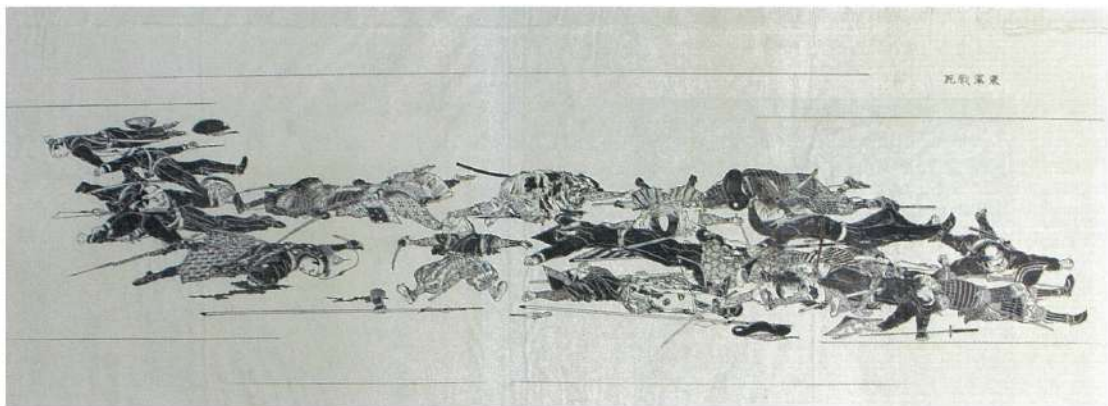


東京上野・寛永寺で行われた
戊辰殉難者追悼法会の案内状

当館蔵

大正9年（1920）5月7日

当時、江原素六は旧幕臣の親睦団体同方会の会長をつとめていた。



鳥羽・伏見戦争の旧幕府方戦死者

『戊辰戦記画卷』（明治24年刊、保勲会蔵版）所載 当館蔵

「官軍」の戦功を称えるための絵巻であるが、描いたのは沼津兵学校に在職した旧幕臣の画家松岡正盛（緑堂）。

夏休みイベント報告

平和を考える戦争史跡めぐり

7月28日（日）実施 参加人数12人

御成橋の被弾跡や海軍技研の地下工場跡、戦時疎開学園の建物などをバスで回りました。



学芸員体験講座

8月1日（木）参加者：高校生11人 中学生2人

博物館の概略や学芸員の仕事内容に関する講義、バックヤードや収蔵庫などの館内見学のほか、実際に掛軸・巻子の取扱い等の実習を行いました。



沼津市明治史料館通信

第159号

令和6年10月31日

編集・発行 沼津市明治史料館

〒410-0051 沼津市西熊堂372-1

TEL 055-923-3335

FAX 055-925-3018

印刷 みどり美術印刷株式会社

博物館学芸員実習と館外展示報告

学芸員資格の取得を目指す大学生のための、実習生を受け入れています。今年も8月20日（火）～9月4日（水）の期間、3人の大学生が実習を行いました。さまざまな業務実習はもちろん、ぬましんストリートギャラリーでの館蔵資料展の企画から展示までを学生が行いました。

